

教科・種目名 社会（地理的分野） 調査研究事項
別表 1

調査項目		2 東書
世界の様々な地域	総ページ数	122ページ(第1編)
	単元別ページ数	◇第1章 世界の姿 …16ページ ◇第2章 世界各地の人々の生活と環境…22ページ ◇第3章 世界の諸地域…72ページ(順序:アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニア) ◇第4章 世界のさまざまな地域の調査…12ページ
日本の様々な地域	総ページ数	155ページ(第2編)
	単元別ページ数と構成	◇第1章 日本の姿 …14ページ ◇第2章 世界から見た日本の姿…36ページ ◇第3章 日本の諸地域…87ページ(順序:九州、中国・四国、近畿、中部、関東、東北、北海道) ◇第4章 身近な地域の調査…18ページ ※日本の各地方を大観し、主題項目を学習する構成になっている。
全体の構成	単元の導入	<第1編> 第1章 ◇「世界の姿」のページを設け、宇宙から見た大陸と海洋の写真を取り上げている。 第2章 ◇「世界各地の人々の生活と環境」のページを設け、宗教・文化に関する3枚の写真(メッカへの巡礼、サウジアラビアの食事と男性の服装、韓国の伝統的な衣装を身につけた家族)を取り上げている。 ◇「世界の様々な住居」のページを設け、5つの住居の写真と世界の気候帯を表した地図を取り上げている。

17 教出	46 帝国	116 日文
110ページ(第1編)	117ページ(第1部)	112ページ(第1編)
◇第1章 私たちの地球と世界の地域構成…12ページ ◇第2章 人々の生活と環境…16ページ ◇第3章 世界の諸地域…71ページ(順序:アジア、アフリカ、ヨーロッパ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニア) ◇第4章 世界のさまざまな地域の調査…9ページ	◇第1章 世界の姿…12ページ ◇第2章 世界各地の人々の生活と環境…19ページ ◇第3章 世界の諸地域…77ページ(順序:アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニア) ◇第4章 世界のさまざまな地域の調査…9ページ	◇第1章 世界の姿…12ページ ◇第2章 世界各地の人々の生活と環境…18ページ ◇第3章 世界の諸地域…70ページ(順序:アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニア) ◇第4章 世界のさまざまな地域の調査…12ページ
141ページ(第2編)	156ページ(第2部)	156ページ(第2編)
◇第1章 日本の地域構成…12ページ ◇第2章 世界から見た日本のすがた…24ページ ◇第3章 日本の諸地域…90ページ(順序:九州、中国・四国、近畿、中部、関東、東北、北海道) ◇第4章 身近な地域の調査…15ページ ※日本の各地域を主題項目に沿って学習する構成になっている。	◇第1章 日本の姿…12ページ ◇第2章 世界と比べた日本の地域的特色…35ページ ◇第3章 日本の諸地域…99ページ(順序:九州、中国・四国、近畿、中部、関東、東北、北海道) ◇第4章 身近な地域の調査…10ページ ※日本の各地域を主題項目に沿って学習する構成になっている。	◇第1章 日本の姿…18ページ ◇第2章 世界から見た日本の姿…38ページ ◇第3章 日本の諸地域…86ページ(順序:九州、中国・四国、近畿、中部、関東、東北、北海道) ◇第4章 身近な地域の調査…14ページ ※日本の各地方を大観し、主題項目を学習する構成になっている。
<第1編> 第1章 ◇「私たちの地球と世界の地域構成」のページを設け、世界の大陸と州による地域区分を示した世界全図と赤道上の記念碑(ウガンダ)を取り上げている。 第2章 ◇「人々の生活と環境」のページを設け、世界の記交代を表した地図と3つの都市(東京、尾鷲、チェラプンジ)の気候と降水量を表したグラフを取り上げている。	<第1部> 第1章 無 第2章 無	<第1編> 第1章 ◇「世界の姿ナビ」ページを設け、三大洋と六大陸を示した世界全図を取り上げている。 第2章 ◇「世界の生活ナビ」のページを設け、世界全図の中で世界の人々の生活の様子を示した6枚の写真(マレーシア:暑い地域に生きる人々、モンゴル:乾燥地域に生きる人々、イタリア:温暖な地域に生きる人々、アンデス:高地に生きる人々、アラスカ:寒い地域に生きる人々、モザンビーク:海に生きる人々)を取り上げている。

調査項目		2 東書
全体の構成	単元の導入	<p><第1編> 第3章 ◇「世界の諸地域」のページを設け、国際協力・世界遺産・多文化社会に関する3枚の写真(ウガンダ：青年海外協力隊による農作業の指導、中国：万里の長城、ブラジル：サンパウロの東洋人街)を取り上げている。 ※各節ごとに、各州の地図・グラフとその国・地域の特色を示した写真を取り上げている。</p> <p>第4章 ◇「世界のさまざまな地域の調査」のページを設け、韓国の家族の食卓風景の写真と韓国のある小学校の一週間の給食表を取り上げている。また、地域調査の手順を7つに分けて明記している。</p> <p><第2編> 第1章 ◇「日本の姿」のページを設け、日本の領土(海・島々)を示した写真を取り上げている。</p> <p>第2章 ◇「世界から見た日本の姿」のページを設け、地形・ニュータウン・工業地域・貿易に関する4枚の写真(石狩平野を流れる石狩川、泉パークタウン、鹿島臨海工業地域、日本に石油を運ぶタンカー)を取り上げている。</p>

17 教出	46 帝国	116 日文
<p><第1編> 第3章 ◇「世界の諸地域」のページを設け、4つの国(ブラジル、インド、ベトナム、韓国)の食事風景の写真を取り上げている。</p> <p>第4章 ◇南アジアの地勢と国々を示した地図と気温・降水量を表したグラフを取り上げている。また、地域調査のテーマ設定(地域の多様なすがた、人々のくらしの変化、地域の課題)を明記している。</p> <p><第2編> 第1章 ◇「日本の地域構成」のページを設け、3枚の写真(マルコポーロ、日本の標準時を示す時計塔、武家屋敷を訪れる観光客)を取り上げている。</p> <p>第2章 ◇「世界から見た日本のすがた」のページを設け、2枚の写真(金沢まで開業した北陸新幹線の出発式、噴火活動で面積が拡大する西之島)と日本付近の夜間の様子を示した地図を取り上げている。</p>	<p><第1部> 第3章 ◇「序節 世界の諸地域を学ぶにあたって」のページを設け、各州で注目するテーマを取り上げている。 ※各節ごとに、各州の地図とその国・地域の特色を示した写真を取り上げている。</p> <p>第4章 ◇世界の国や地域を調べる6つの視点(自然環境、人口、地域間の結びつき、歴史・生活・文化、資源、産業)を明記し、その視点に関する6枚の写真(オーストラリアの雄大な自然、人と車のあふれるナイジェリアの市場、ハワイのビーチリゾート、アルゼンチンのヨーロッパ風町なみ、中国に進出した韓国の自動車メーカー、ドイツの風力発電)を取り上げている。</p> <p><第2部> 第1章 無</p> <p>第2章 無</p>	<p><第1編> 第3章 ◇「世界の諸地域ナビ」のページを設け、各州の特色・様子を示した6枚の写真(アジア：シャンハイ、ヨーロッパ：ロンドン、アフリカ：サハラ砂漠、北アメリカ：ニューヨーク、南アメリカ：アマゾンの熱帯雨林、オセアニア：オアフ島)を取り上げている。</p> <p>第4章 ◇「国調ベナビ」のページを設け、ロシアを例に取り上げ、ロシアの地図と人々のようすを示した写真を取り上げている。</p> <p><第2編> 第1章 ◇「日本の姿ナビ」のページを設け、日本の領土(海・島々・範囲)を示した写真を取り上げている。</p> <p>第2章 ◇「世界から見た日本の姿ナビ」のページを設け、地域によるさまざまな違いが見られる2枚の写真(徳島県上勝町と東京都渋谷区、沖縄県名護市と秋田県湯沢市)を取り上げている。</p>

調査項目		2 東書
全体の構成	単元の導入	<p><第2編> 第3章 ◇「日本の諸地域」のページを設け、伝統的な産業・祭り・交通・特産物に関する4枚の写真(焼き物を作る職人、松山の秋祭り、船に積みこまれる自動車、さとうきび畑)を取り上げている。 ◇各節ごとに、各地方のグラフと都道府県・地域の特色を示した写真を取り上げている。</p> <p>第4章 ◇「身近な地域の調査」のページを設け、空から見た静岡市のような写真を取り上げている。また、地域調査の手順を7つに分けて明記している。</p>
	1時間の学習の流れ	<p>◇「ためしてみよう」を設け、導入部で取り組む作業や活動を取り上げている。 ◇小単元名の右に、学習する内容の見通しを持つための課題を表記している。 ◇「えんぴつマーク」を設け、学習を深めるための作業や活動を取り上げている。 ◇「ティークレイク」を設け、ちょっとおもしろい興味を引く話題を取り上げている。 ◇「確認マーク」を設け、その時間に学習した内容を確認したり、さらに深めたりする課題を表記している。</p>

17 教出	46 帝国	116 日文
<p><第2編> 第3章 ◇「日本の諸地域①日本の西南部」「日本の諸地域②日本の中央部」「日本の諸地域③日本の東北部」の3つに分けて、それぞれページを設け、地域の特色を示した写真(①大隅海峡上空から見た開聞岳、出雲平野の築地松に囲まれた家、傾斜地で行われるみかんの収穫作業、②百舌鳥古墳群、水害から暮らしを守る工夫輪中、河童橋と穂高連峰上高地、華厳滝と中禅寺湖日光、③初夏の伝統行事「チャグチャグ馬コ」、十和田湖から見える八甲田山、知床半島に接岸した流氷)を取り上げている。</p> <p>第4章 ◇「身近な地域の調査」のページを設け、愛知県を空からとらえて鳥瞰図と3枚の写真(伝統工芸士による手描友禅の色挿し作業、復元がすすむ名古屋城本丸御殿、名古屋城本丸御殿の内部)を取り上げている。また、空からながめた名古屋市のような写真を取り上げている。</p>	<p><第2編> 第3章 ◇「序節 日本の諸地域を学ぶにあたって」のページを設け、各地方で注目する視点と複数の視点を関連させながら地域をみる例を取り上げている。 ◇各節ごとに、各地方の地図と都道府県・地域の特色を示した写真を取り上げている。</p> <p>第4章 ◇身近な地域調べとして、東京都練馬区の例をあげ、空から見た練馬区のような写真を取り上げている。</p>	<p><第2編> 第3章 ◇「日本の諸地域ナビ」のページを設け、各地方の特色・様子を示した7枚の写真(九州：湯布院、中国・四国：瀬戸大橋・近畿：橿原市今井町、中部：名古屋港、関東：横浜市、東北：かまくら、北海道：流氷と観光船)を取り上げている。</p> <p>第4章 ◇「身近な地域調べナビ」のページを設け、愛知県小牧市の例をあげ、空から見た小牧市のような写真を取り上げている。</p>
<p>◇「見てみよう」を設け、学習のきっかけとなる資料を解説文とともに取り上げている。 ◇「学習課題」を設け、これからの学習で何を追究していくかを表記している。 ◇「測注解説」を設け、1時間の学習の中で知っておきたい用語の説明を取り上げている。 ◇「読み解こう」を設け、資料を読み取ったり、考えを深めたりする作業活動を取り上げている。 ◇「ふりかえる」を設け、ステップ1では、その時間で学習したことを振り返って確認し、ステップ2では、学習してきたことを活用して表現する課題を表記している。</p>	<p>◇見開き内容の入り口となる資料と関係する問いかけを取り上げている。 ◇「学習課題」を設け、これからの学習でおさえるべき課題を表記している。 ◇「やってみよう」を設け、穴埋めや書き込み等教科書や地図帳を活用した作業を取り上げている。 ◇「資料活用」を設け、資料に対する問いかけや作業活動や注目すべき点を取り上げている。 ◇「解説」のコーナーを設け、わかりにくい用語説明を取り上げている。 ◇「確認しよう」を設け、本文の中から学習上大切な事項を書き出す作業と「説明しよう」を設け、学習した内容を踏まえ、自分の言葉で説明する課題を表記している。</p>	<p>◇見開き内容の入り口となる資料と関係する問いかけを取り上げている。 ◇「学習課題」を設け、これからの学習で何を学んでいくかを表記している。 ◇「言語活動コーナー」を設け、図版の読み取り、読み取ったことを思考・判断・表現する活動を取り上げている。 ◇「トライ」を設け、学習内容を深めるための作業を取り上げている。 ◇「学習の確認と活用」を設け、学習の理解を確実にするとその知識を活用してさらに深めたり、問題に取り組む課題を表記している。</p>

調査項目		2 東書
全体の構成	単元の学習内容の振り返り	◇第1編の第1・2・3章、第2編の第1・2・3章について、「この章の学習を確認しよう」のページを設け、各章で学習した内容がおさえられたか確認している。 ◇第1編の第3章、第2編の第3章について、各州ごとに「～州の学習をふり返ろう」、各地方ごとに「～地方をふり返ろう」のページを設け、学習をふり返りながらまとめを行っている。

17 教出	46 帝国	116 日文
◇第1編の第2章、第3章の各州ごとに、第2編の第2章、第3章の各地方ごとに「学習のまとめと表現」のページを設け、学習した内容を地図を使って確かめ、まとめを行っている。	◇第1編の第3章の各州ごとに、第2編の第3章の各地方ごとに「学習をふりかえろう」のページを設け、学習した内容の確認とまとめを行っている。	◇第1編の第3章の各州ごとに、第2編の第3章の各地方ごとに「学習のまとめ」のページを設け、学習した内容を整理し、確認を行っている。

別表2

調査項目		2 東書
地球儀や地図の活用例のページ数		16ページ (P8. 9. 10. 11. 13. 39. 51. 87. 117. 122. 137. 148. 149. 268. 269. 278)
地理的技能を身に付けさせるための記載		◇「地理スキル・アップ」で16項目記載 ◇「調査の達人」で20項目記載 ◇各章末に「この章の学習を確認しよう」「深めよう」を記載 ◇「世界のさまざまな地域の調査」「身近な地域の調査」の調査事例として記載 【略地図】「地理スキル・アップ」の「世界の略地図のえがき方」「日本の略地図のえがき方」2ページ
小学校での既習事項と関連付けたページの有無		有 ◇各章の導入のところに掲載
「世界の諸地域」の設定 主題	アジア	◇「急速に進む成長と変化」
	ヨーロッパ	◇「国どうしの統合による変化」
	アフリカ	◇「特定の生産品にたよる生活からの変化」
	北アメリカ	◇「盛んな農業や工業の特色」
	南アメリカ	◇「開発の進展と環境問題」
	オセアニア	◇「強まるアジアとの結びつき」

17 教出	46 帝国	116 日文
19ページ (P6. 7. 8. 18. 20. 21. 22. 117. 121. 122. 123. 124. 136. 142. 143. 253. 254. 255. 260)	16ページ (P8. 9. 10. 11. 13. 32. 116. 129. 138. 139. 140. 141. 148. 149. 269. 273)	16ページ (P8. 9. 10. 11. 26. 53. 73. 108. 125. 126. 127. 128. 129. 256. 257. 261)
◇「地理にアプローチ」で16項目記載 ◇各地方学習のあとに「学習のまとめと表現」を記載 ◇「世界のさまざまな地域の調査」「身近な地域の調査」の調査事例として掲載 【略地図】「地理にアプローチ」の「世界の略地図を描こう」「日本の略地図を描こう」2ページ	◇「技能をみがく」で25項目記載 ◇「トリアル地理」で2項目記載 ◇各地方学習のあとに「学習をふりかえろう」を記載 ◇「世界のさまざまな地域の調査」「身近な地域の調査」の調査事例として記載 【略地図】「技能をみがく」の「世界の略地図のかき方」「日本の略地図のかき方」2ページ	◇「スキルup」で37項目記載 ◇各章末に「学習の活用」を記載 ◇「世界のさまざまな地域調査」「身近な地域の調査」の調査事例として記載 【略地図】「地球儀と地図を活用する」の「世界の略地図のかき方」「日本のさまざまな地域区分をとらえる」の「日本の略地図のかき方」2ページ
無	無	有 ◇「連携コーナー」で27項目記載
◇「アジアの多様性と経済発展」	◇「巨大な人口と急速な経済発展に注目して」	◇「経済成長による社会の変化をテーマに」
◇「統合を強めるヨーロッパの国々」	◇「国境をこえた結びつきによる変化に注目して」	◇「EU統合による社会の変化をテーマに」
◇「アフリカの人々の暮らしとその変化」	◇「人々の生活の変化と自立への課題に注目して」	◇「主な生産品にたよる経済からの変化をテーマに」
◇「世界に大きな影響力をもつ北アメリカ」	◇「世界に影響を与える産業と文化に注目して」	◇「世界じゅうに影響をあたえる産業をテーマに」
◇「南アメリカの開発と環境」	◇「進む開発と環境問題に注目して」	◇「開発・環境問題と人々の生活をテーマに」
◇「他地域と結びつくオセアニア」	◇「多文化社会の形成とアジアとの結びつきに注目して」	◇「他地域との結びつきの変化をテーマに」

調査項目		2 東書
「世界と比べた日本の地域的特色」の小単元名	自然環境	◇世界の地形 ◇日本の山地と海岸 ◇日本の川と平地 ◇世界から見た日本の気候 ◇自然災害と防災への取り組み
	人口	◇世界の人口分布と変化 ◇日本の人口と過疎・過密問題
	資源・エネルギーと産業	◇世界の資源・エネルギーと産業 ◇日本の資源・エネルギーと環境問題 ◇日本の農林水産業 ◇日本の工業 ◇日本の商業・サービス業
	地域間の結び付き	◇グローバル化が進む世界 ◇日本各地を結ぶ交通・通信
「日本の諸地域」の考察の仕方と事例地域（地方名）及び単元名	自然環境	◇北海道地方「雄大な自然とともに生きる人々の暮らし」
	歴史的背景	◇近畿地方「歴史の中で形作られてきた人々の暮らし」
	産業	◇中部地方「活発な産業を支える人々の暮らし」
	環境問題や環境保全	◇九州地方「環境問題・環境保全に向き合う人々の暮らし」
	人口や都市・村落	◇中国・四国地方「都市と農村の変化と人々の暮らし」
	生活・文化	◇東北地方「伝統的な生活・文化や、災害からの教訓を受けつぐ人々の暮らし」
	他地域との結び付き	◇関東地方「さまざまな地域と結びつく人々の暮らし」

17 教出	46 帝国	116 日文
◇変動する大地と安定した大地 ◇変化に富む日本列島の地形 ◇地形図を使って地形をみていこう ◇四季のある気候 ◇自然がもたらす災害と向き合う ◇災害から身を守るために	◇世界の地形 ◇日本の山地・海岸と周辺 ◇日本の川と平野 ◇日本の気候 ◇日本のさまざまな自然災害 ◇自然災害に対する備え	◇世界の地形 ◇日本の地形 ◇世界の気候 ◇日本の気候 ◇世界と日本の地震・火山災害 ◇世界と日本の気象災害 ◇災害にそなえるために
◇世界の人口分布と変化 ◇日本の人口分布と課題	◇世界の人口分布と変化 ◇日本の人口の変化と特色	◇世界の人口の分布と変化 ◇日本の人口の分布と変化
◇資源・エネルギーのかたよる分布 ◇産業の構成とその変化	◇世界の資源・エネルギー ◇日本の資源・エネルギーと電力 ◇日本の農業・林業・漁業とその変化 ◇日本の工業とその変化 ◇日本の商業・サービス業	◇世界と日本の資源・エネルギー ◇世界と日本の第1次産業 ◇世界と日本の第2次産業 ◇世界と日本の第3次産業
◇結びつきを強める世界と日本	◇世界と日本の交通・通信網	◇世界各地の結びつき ◇日本の結びつき
◇北海道地方「自然環境を中心に考えよう」	◇九州地方「自然環境に注目して」	◇北海道地方「自然環境の視点で」
◇近畿地方「歴史的背景を中心に考えよう」	◇北海道地方「歴史的背景に注目して」	◇近畿地方「歴史的背景の視点で」
◇中部地方「産業を中心に考えよう」	◇中部地方「産業に注目して」	◇中部地方「産業の視点で」
◇九州地方「環境問題と環境保全を中心に考えよう」	◇近畿地方「環境保全に注目して」	◇九州地方「環境問題や環境保全の視点で」
◇中国・四国地方「人口や都市・村落を中心に考えよう」	◇関東地方「人口や都市に注目して」	◇中国・四国地方「人口や都市・村落の視点で」
◇東北地方「生活・文化を中心に考えよう」	◇東北地方「生活・文化に注目して」	◇東北地方「生活・文化の視点で」
◇関東地方「他地域との結びつきを中心に考えよう」	◇中国・四国地方「他地域との結びつきに注目して」	◇関東地方「他地域との結びつきの視点で」

調査項目		2 東書
「日本の領域」の取扱い	領域を示した地図、図表、写真等の内容	<p>◇「日本の領域と排他的経済水域」の地図及び島名の記入欄を記載</p> <p>◇「領土・領海・領空の区分」の図表</p> <p>◇「主な国の領海・排他的経済水域と領土の面積」の図表</p> <p>◇「地理にアクセス 沖ノ鳥島の護岸工事」というコラム欄で、沖ノ鳥島の写真及び説明文の記載 「沖ノ鳥島は、北回帰線よりも南にある東西4.5km、南北1.7km、外周約11kmの環礁の中の、無人島です。満潮時には、大小二つほどの陸が海上に1mほど顔を出すだけになってしまいます。この島がなくなってしまうと、日本は約40万km²もの排他的経済水域を失うことになります。日本の国土面積（約38万km²）と比較すると、いかに広大な水域であるかが分かります。日本政府は、この島を波の浸食から守るために、約300億円をかけて護岸工事を行いました。現在も沖ノ鳥島は、国が直接管理しています。」</p>

17 教出	46 帝国	116 日文
<p>◇「日本の領土・領海と排他的経済水域」の地図及び島名を地図中に記載</p> <p>◇「領土・領海・領空の区分」の図表</p> <p>◇「主な国の領土と排他的経済水域の面積」の図表</p> <p>◇「地理の窓 日本の最南端をめぐる問題」というコラム欄で、沖ノ鳥島の写真及び説明文の記載 「沖ノ鳥島は、東小島と北小島からなる熱帯の無人島で、日本の最南端の北緯20度に位置しています。沖ノ鳥島は、満潮時に二つの島が海面上に出るだけなので、もし干潮時に水没すると日本の領土でなくなってしまう。政府は消波ブロックとコンクリートでこの岩を囲み、東小島の上部を金属製のふたでおおうなど大規模な護岸工事を行いました。沖ノ鳥島が領土として存在することにより、島の周囲の約40万km²の範囲が日本の排他的経済水域として維持されています。」</p>	<p>◇「日本の東西南北の端と排他的経済水域の範囲」の地図及び、島名の記入欄を記載</p> <p>◇「領土・領海・領空」の模式図</p> <p>◇「おもな国の排他的経済水域の面積」の図表</p> <p>◇「日本の南端、沖ノ鳥島」の写真及び説明文の記載 「沖ノ鳥島は東京から南へ1700kmはなれた無人島で、日本の最も南になるサンゴ礁の島です。満潮時には、北小島と東小島が海面上に出るだけで、もし水没すると領土と認められなくなり、日本の国土面積より広い40万km²以上の排他的経済水域を失うこととなります。このため、島のまわりを消波ブロックやコンクリートで保護し、上部を金網でおおうなどして、島の安全が進められてきました。島のそばには観測施設も設置され、国が直接、島の維持管理を行っています。」</p>	<p>◇「日本の領域と排他的経済水域」の地図</p> <p>◇「領土・領海・領空・排他的経済水域の範囲」の図表</p> <p>◇「主な国の排他的経済水域面積を含めた領域面積」の図表</p> <p>◇「国土の北端・東端・西端・南端」の写真</p> <p>◇「地理+α 沖ノ鳥島を守れ！」というコラム欄で、沖ノ鳥島の写真及び説明文の記載 「沖ノ鳥島は、満潮時には、二つの小さな島だけが沈まないさんご礁です。この島に、周辺の約40万km²の排他的経済水域が支えられています。そこで、波の浸食から島を守る護岸工事が行われました。また、船の接岸をしやすくする港湾施設の建設も進められています。」</p>

調査項目		2 東書
「日本の領域」の取扱い	「北方領土」に関する記載のある単元、内容	<ul style="list-style-type: none"> ◇単元「日本の姿」 ◇内容「北海道の東にある北方領土は、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島から成り立っています。北方領土は、かつては多くの日本人が暮らしていた日本固有の領土です。しかし、第二次世界大戦の終結の直後にソビエト社会主義共和国連邦（ソ連）が占領し、ソ連解体後もロシア連邦が引き続き不法に占拠しています。現在、日本とロシア連邦との間では、石油などの資源開発に関する話し合いも進んでいます。北方領土の返還はいまだに実現されていません。」 ◇「日本の領土返還の歴史と北方領土」の地図 ◇「地理にアクセス 日本列島を構成する島々」で、北方領土周辺の地形の地図、20万分の1地勢図及び説明文の記載
	「竹島」に関する記載のある単元、内容	<ul style="list-style-type: none"> ◇単元「日本の姿」 ◇内容「日本海上の竹島も日本の固有の領土ですが、韓国が不法に占拠しています。日本はこれに抗議する一方で、国際機関を利用した解決を呼びかけるなど、外交的な努力を続けています。」 ◇「竹島」の写真 ◇「地理にアクセス 日本列島を構成する島々」で竹島周辺の地形の地図、2万5000分の1地形図及び説明文の記載

17 教出	46 帝国	116 日文
<ul style="list-style-type: none"> ◇単元「日本の地域構成」 ◇内容「北海道の東に位置する歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島を北方領土とよびます。北方領土は、1945年の第二次世界大戦の終結後にソ連に占領されました。終戦時には北方領土にはおよそ1700人の人々が生活していましたが、日本人は強制退去させられました。ソ連の解体後も現在に至るまでロシア連邦によって不法に占拠されています。日本政府は、ロシア連邦政府に対して、日本の固有の領土である北方領土の返還を求め続けていますが、いまだに実現されていません。」 ◇「北方領土とその周辺」の地図 ◇「北方領土問題に関する主なできごと」の年表 ◇「領土問題などを話し合う日ロ首脳会談（2013年）」の写真 ◇「日本とロシアの中学生による意見交換会」の写真 	<ul style="list-style-type: none"> ◇単元「日本の姿」 ◇内容「北海道の北東にある国後島・択捉島・色丹島・歯舞群島は、日本の固有の領土で、北方領土とよばれています。日本はサンフランシスコ平和条約において、樺太（サハリン）の一部や千島列島の権利を放棄しましたが、北方領土の4島はその放棄地にふくまれていません。しかし、第二次世界大戦後にソビエト連邦に占領され、日本人は強制的に退去させられました。その後、現在までロシアが不法に占拠した状態となっています。日本はロシアに対して北方領土すべての返還を求め続けていますが、いまだに実現されていません。」 ◇「北方領土周辺の国境の移り変わり」の4枚の地図 ◇「北海道から見える北方領土の島々」の写真 ◇「かつて島に住んでいた日本人の墓に手を合わせるビザなし交流団の人々」の写真 ◇「ビザなし交流でロシアから日本に来た中高生たち」の写真 	<ul style="list-style-type: none"> ◇単元「日本の姿」 ◇内容「北方領土は、択捉島・国後島・色丹島・歯舞群島からなる日本固有の領土です。日本は、18世紀頃から本格的な開発を始め、1855年の日露通商条約で、日本の領土であることが確認されました。しかし、1945年にソ連に占領され、ソ連解体後もロシアが不法に占拠しています。ソ連に占領されるときに、当時住んでいた日本人はふるさとを追われ、現在、北方領土に日本人は住んでいません。日本は、北方領土の返還をロシアに強く要求していますが、いまだに実現していません。」 ◇「北方領土付近の国境の変化」の4枚の地図 ◇「北方領土の位置」の地図 ◇「羅臼から見た国後島」の写真 ◇「ビザなし交流で国後島の一般家庭をおとずれ、ロシア人と交流する訪問団」の写真
<ul style="list-style-type: none"> ◇単元「日本の地域構成」 ◇内容「1905年に政府は、竹島を国際法に基づき島根県に編入し、日本固有の領土としました。1952年以降、韓国が竹島を自国の領土として主張し、現在まで不法に占拠し続けています。日本はこれに抗議をかさねるとともに、国際社会の場での話し合いを提案していますが、韓国は受け入れていません。」 ◇「竹島、尖閣諸島の位置」の地図 ◇「竹島」の写真 	<ul style="list-style-type: none"> ◇単元「日本の姿」 ◇内容「1905年に明治政府が国際法に従って島根県に編入し、日本固有の領土として再確認されました。しかし1952年から、韓国が一方的に竹島を自国の領土と主張し、海洋に警察隊をおいたり、灯台や埠頭などを建設したりして、不法に占拠しています。日本はこれに抗議し、国際司法裁判所での話し合いを3回も提案していますが、韓国が応じず現在にいたっています。」 ◇「竹島」の写真 ◇「漁業がさかんだった昔の竹島」というコラム欄で、「竹島での漁のようす」の写真及び説明文の記載 	<ul style="list-style-type: none"> ◇単元「日本の姿」 ◇内容「竹島は、本州からおよそ200kmはなれた日本海にある、日本固有の領土です。1905年には、島根県に編入されました。ところが、1952年から、韓国が、一方的に自国の領土であると主張して竹島を取り込み、警備員を常駐させたり、施設をつくったりして、不法に占拠しています。日本は、韓国に対して何度も厳重に抗議しています。」 ◇「竹島」の写真 ◇「竹島が日本固有の領土であることを示す地図の展示」の写真

調査項目		2 東書
「日本の領域」の取扱い	「尖閣諸島」に関する記載のある単元、内容	<p>◇単元「日本の姿」</p> <p>◇内容「東シナ海上の尖閣諸島は、日本が固有の領土として実効的な支配を続けています。中国がその領有権を主張していますが、広く国際社会からも日本の領土として認められています。」</p> <p>◇「尖閣諸島」の写真</p> <p>◇「地理にアクセス 日本列島を構成する島々」で尖閣諸島周辺の地形の地図、5万分の1の地形図及び説明文の記載</p>

17 教出	46 帝国	116 日文
<p>◇単元「日本地域構成」</p> <p>◇内容「尖閣諸島は、1895年に沖縄県に編入された日本固有の領土です。第二次世界対戦後には、アメリカ合衆国の施政下に置かれてきましたが、1971年に沖縄返還協定が結ばれ、翌年日本に復帰しました。尖閣諸島は、アメリカ合衆国の施政下にあった期間を除いて日本が領有し、有効に支配を続けてきました。しかし、1970年代から、周辺海域に埋蔵されているとされる資源をめぐり、中国が領有を主張し始めました。」</p> <p>◇「尖閣諸島」の写真</p>	<p>◇単元「日本の姿」</p> <p>◇内容「東シナ海にある尖閣諸島は、1895年に沖縄県に編入された日本固有の領土です。第二次世界大戦後はアメリカ軍の占領下に一時おかれましたが、1972年に沖縄県の一部として日本に復帰しました。尖閣諸島には、そもそも領有権の問題は存在しませんが、周辺海域に原油などの資源が埋蔵されていることが注目されるようになった1970年代から、中国が一方的に領有権を主張するようになりました。」</p> <p>◇「尖閣諸島」の写真</p> <p>◇「日本の領海に侵入する中国の船」の写真</p>	<p>◇単元「日本の姿」</p> <p>◇内容「尖閣諸島は、石垣島からおよそ170kmはなれた東シナ海にあります。1895年に日本が領有を宣言して、沖縄県に編入しました。また、サンフランシスコ平和条約でも日本の領土とされ、このことに周辺の国々からの反対はありませんでした。その後も、日本固有の領土として管理されてきており、尖閣諸島には領土問題が存在していません。ところが、東シナ海に石油が埋蔵されている可能性が指摘された1970年代になって、中国などが尖閣諸島の領有権を主張するようになりました。」</p> <p>◇「尖閣諸島」の写真</p> <p>◇「尖閣諸島の日本の領海に侵入する中国の船」の写真</p>

別表3

調査項目		2 東書
言語活動を充実させるための工夫		◇見開きごとに「確認」のマークを設けている。
地理的事象を多面的、多角的に捉えるための工夫		◇「地理にアクセス」を設けている。 ◇各節の最後に「深めよう」のコーナーを設けている。
調査の仕方のページ数と内容	「世界の様々な地域の調査」(事例地域)	◇12ページ(P115～126) 韓国を例に挙げ、調査方法の手順を説明している。
	「身近な地域の調査」(事例地域)	◇14ページ(P264～280) 静岡県・静岡市
	社会参画の視点に関わる記述	◇P152自然災害と防災への取り組み ◇第2編以降の「深めよう」のページ

17 教出	46 帝国	116 日文
◇見開きごとに「ふりかえる」ステップ1・ステップ2を設けている。	◇見開きの右下には、「確認しよう」と「説明しよう」を設けている。	◇「言語活動のコーナー」と「学習の確認と活用」が設けている。
◇「地理の窓」を設けている。 ◇「地域から世界を考えよう」と「現代日本の課題を考えよう」のコラムを設けている。	◇「地域を探ろう」を設けている。	◇「地理プラスα世界と日本」を設けている。 ◇「自由研究」と「地域からのメッセージ」を設けている。
◇9ページ(P112～120) 南アジア・インド	◇9ページ(P110～118) 韓国を例に挙げ、調査方法の手順を説明している。	◇12ページ(P101～112) ロシア
◇12ページ(P252～264) 愛知県・名古屋市	◇8ページ(P266～274) 東京都練馬区	◇11ページ(P255～264) 愛知県・小牧市
◇P148災害から身を守るために「現代日本の課題を考えよう」の内容	◇P146自然災害に対する備え「地域を探ろう」のページ ◇羅針盤マークの「環境」、「防災」のコラム	◇P144災害に備えるために「地理プラスα持続可能な社会」、「地理プラスα災害・防災」のコラム

調査項目		2 東書
調査のまとめ方の例示	「世界の様々な地域の調査」	◇レポート 1 集めた情報による調査テーマの決定 2 仮説の設定と調査計画の立案 3 調査計画を基にさまざまな方法による調査の実施 4 集めた資料の整理と仮説の検証に基づく調査の考察とまとめ 5 調査結果の発表
	「身近な地域の調査」	◇レポート 1 身近な地域を見直そう・身近な地域の情報を集めよう・地形図の読み取り方 2 調査テーマを決めて計画を立てよう・テーマの話し合い・仮説を立てる・調査計画を立てる 3 野外観察や聞き取り調査をしよう・野外観察・聞き取り調査の方法 4 資料を調べて調査を深めよう・集めた資料で調査する・地域の変化や課題をとらえよう
表現活動の充実への工夫		◇調査のまとめ方の項で、レポートの書き方を例示している。
新聞を活用している単元とその内容		無

17 教出	46 帝国	116 日文
◇レポート 1 キーワードを出し合う 2 出し合ったキーワードに基づくテーマの設定 3 さまざまな資料や方法に基づく調査の実施 4 集めた資料や情報(図や地図等)による調査結果のまとめ 5 調査結果の発表	◇レポート・壁新聞の作成 1 テーマの設定と仮説に基づく調査計画の立案 2 文献・ネット・統計資料等を活用した調査の実施 3 調査結果のまとめとレポートの作り方 4 調査結果の発表と展示発表の仕方	◇壁新聞の作成 1 テーマの設定と仮説に基づく調査計画の立案 2 調査の進め方・文献活用・グラフ作成 3 ネットの活用と聞き取り調査の実施 4 調査結果のまとめ・仮説の検証 5 発表方法
◇レポート 1 地域をながめて・野外観察・身近な地域を見直そう・高い場所から・風景の観察 2 地形図の見方を知ろう・地形図と縮尺 3 調査テーマを決めて計画を立てよう・ルートマップ・調査予定を立てよう 4 地域の工業を調べよう・文献統計資料を利用しよう・聞き取り調査をしよう 5 地域の商店街を調べよう・新旧地図を比べよう	◇レポート・壁新聞の作成 1 テーマ決め・身近な地域を見直そう・疑問の整理・予想 2 調べる方法を考えよう・調査の準備・ルートマップの作り方 3 実際に調査をしてみよう・野外観察・聞き取り調査の方法・調査ノートの取り方 4 資料を集めてさらに深めよう・資料の使い方・資料の比較 5 調査結果を発表しよう・レポートによる発表	◇壁新聞の作成 1 テーマ決め・仮説立て・調査計画 2 調査の進め方・文献活用・グラフ作成 3 調査の進め方・ネット活用・聞き取り調査 4 調査結果のまとめ・地域の課題をとらえよう
◇調査のまとめ方の項で、レポートの書き方を例示している。	◇調査のまとめ方の項で、レポートと壁新聞の書き方を例示している。	◇調査のまとめ方の項で、壁新聞の書き方を例示している。
無	無	無

別表 4

調査項目	2 東書
教科書の使い方（学習の進め方）に関する記載	◇巻頭「地理学習の初めに」で地理学習の目標について記述している。 ◇P4に教科書のコーナー等を紹介し説明している。 ◇第1編・第2編の表紙に、簡潔に学習の進め方を記している。
自主学习、自由研究用に設定されている課題の数と内容	◇「～の学習を確認しよう」19項目 ◇「地理にアクセス」のコラム51項目
資料の収集・活用・整理の仕方など調べ学習の方法についての記載	◇第1編・第2編ともに第4章に記載がある。 「世界の様々な地域の調査」 「身近な地域の調査」 ◇「調査の達人」16項目
作業的・体験的な学習活動例、書き込みページの有無	◇書き込みページは「～の学習を確認しよう」19項目
掲載されているコラムの内容とページ数	◇「地理にアクセス」51ページ ◇「深めよう」16ページ
取り上げられている京都府の地理的事象	◇「近畿地方の人々の営み」 ◇「古都の成り立ちと現在」

別表 5

調査項目	2 東書
「発展」などの記載のあるページの数と内容	◇大陸も海底も移動する ■1項目

17 教出	46 帝国	116 日文
◇巻頭「地理の学習を始めよう」で地理学習の目標について記述している。 ◇P4「地理教科書の使い方」で本文ページの見方・使い方を説明している。	◇巻頭「学習の始めに」で地理学習の目標について記述している。 ◇「この教科書の学習の仕方」で学習のプロセスやコラム等を紹介し説明している。	◇巻頭「教科書の構成と使い方」で本文見開きの使い方を説明している。 ◇各章に学習の進め方を提示している。
◇「学習のまとめと表現」11項目	◇「学習をふりかえろう」13項目 ◇「地域を探ろう」6項目 ◇「トライアル地理」2項目 ◇「羅針盤マーク」コラム22項目	◇「学習の活用」7項目 「学習のまとめ」13項目
◇第1編・第2編ともに第4章に記載がある。 「世界の様々な地域の調査」 「身近な地域の調査」	◇第1部・第2部ともに第4章に記載がある。 「世界の様々な地域の調査」 「身近な地域の調査」 ◇「技能をみがく」コラム・25項目	◇第1編・第2編ともに第4章に記載がある。 「世界の様々な地域の調査」 「身近な地域の調査」 ◇「調べ方を身につける」コラム13項目
◇書き込みページは「学習のまとめと表現」11項目	◇書き込みページは「学習をふりかえろう」13項目 ◇「技能をみがく」コラム25項目 ◇「やってみよう」22項目	◇書き込みページは「トライ」20項目 ◇「学習のまとめ」13項目
◇「地域の窓」43ページ ◇「地域から世界を考えよう」6ページ ◇「現代日本の課題を考えよう」7ページ	◇「羅針盤マーク」コラム22ページ ◇「地域を探ろう」6ページ ◇「学習を深めるためのコラム」32ページ	◇「地理+α」44ページ
◇「歴史に育まれた地域」 ◇「京都の街並みと景観保全」	◇「古都奈良・京都と歴史的景観の保全」 ◇地域を探ろう「伝統的な地場産業から先端技術産業まで」	◇「歴史的街なみと文化」 ◇「近畿地方の産業と歴史」 ◇地域からのメッセージ「時代の変化に対応する伝統文化」

17 教出	46 帝国	116 日文
◇なぜ、日本では地震が多く起きるのか ■1項目	◇どうして日本では地震が多いのだろうか ◇地震と津波 ■2項目	◇地震・津波が起きるしくみ ■1項目

別表6

調査項目	2 東書
<p>歴史的分野との関連を示す印などのある内容と数</p>	<p>特につながりの強い内容の箇所に分野関連マークをつけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇イスラム教と人々の暮らし ◇万里の長城（写真資料） ◇ホワンホー（写真資料） ◇分割されたアフリカ（1914）（主題図） ◇マチュピチュ遺跡（写真資料） ◇震災と防災・減災への取り組み ◇タイにある日本企業の自動車工場（写真資料） ◇さまざまな発電方法の特徴と課題 ◇平和を世界に発信する広島 ◇富士山と芝桜（写真資料） ◇集中豪雨から都市を守る地下調節池 ◇生まれ変わる南部鉄器 ◇アットゥシ（写真資料） ◇アイヌの人たちと多文化共生 <p>■14項目 （そのうち資料のみが7）</p>
<p>公民的分野との関連を示す印などのある内容と数</p>	<p>特につながりの強い内容の箇所に分野関連マークをつけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇主題図の読み取り方① ◇イスラム教と人々の暮らし ◇環境に配慮されたヨーロッパ社会 ◇水没の危機にあるとされるツバル ◇震災と防災・減災への取り組み ◇夜の地球をとらえた衛星写真（写真資料） ◇メタンハイドレートとメタンハイドレートの試験採取に成功した探査船（写真資料） ◇世界の主な国の発電量の内訳（グラフ） ◇主な農産物の自給率の移り変わり（グラフ） ◇タイにある日本企業の自動車工場（写真資料） ◇自動車生産台数における国内生産と海外生産の移り変わり（グラフ）

17 教出	46 帝国	116 日文
<p>歴史的分野との関連を示す印はない。</p>	<p>歴史的分野との関連を示す印はない。</p>	<p>特につながりの強い内容のページ末に矢印のマークを付して説明している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇アフリカ州の歴史、文化、産業 ◇アメリカと世界の結びつき ◇日本の領域をめぐる問題をつかむ ◇環境保全のためのさまざまな取り組み ◇人口の集中する瀬戸内海沿岸 ◇近畿地方の歴史、人口、産業 ◇歴史的都市の街なみと文化 ◇関西大都市圏の成り立ち ◇世界都市・東京と各地との結びつき ◇東北地方の自然環境 ◇東北地方の生活・文化と他地域との結びつき ◇自然環境を生かした人々の生活 <p>■12項目</p>
<p>公民的分野との関連を示す印はない。</p>	<p>公民的分野との関連を示す印はない。</p>	<p>特につながりの強い内容のページ末に矢印のマークで説明している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇EUの成立と人々の生活の変化 ◇ヨーロッパ州の産業や経済の変化 ◇都市化による変化と残された課題 ◇アメリカと世界の結びつき ◇日本の領域をめぐる問題をつかむ <p>■5項目</p>

調査項目	2 東書
<p>公民的分野との関連を示す印などのある内容と数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇大規模なアウトレットモール（写真資料） ◇さまざまな発電方法の特徴と課題 ◇平和を世界に発信する広島 ◇南側から見た京都市の街並み（写真資料） ◇富士山と芝桜（写真資料） ◇南アメリカの食品を売るスーパー（写真資料） ◇集中豪雨から都市を守る地下調節池 ◇キャベツの収穫と出荷するキャベツの積み込み（写真資料） ◇生まれ変わる南部鉄器 ◇アットゥシ（写真資料） ◇にしん漁でにぎわう江差の港（図資料） ◇アイヌの人たちと多文化共生 ◇アイヌ古式舞踊（写真資料） <p>■ 24項目 （そのうち資料のみが14）</p>
<p>道徳との関連を示す印などのある内容と数</p>	<p>道徳との関連を示す印はない。</p>
<p>人権教育、福祉教育、キャリア教育、環境教育との関連を示す印などのある内容と数</p>	<p>「深めよう」という特設ページに、グレーで塗りつぶした枠のなかに黒字で人権・平和と書かれた箇所がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇アイヌの人たちと多文化共生 <p>■ 1項目</p>

17 教出	46 帝国	116 日文
<p>道徳との関連を示す印はない。</p>	<p>道徳との関連を示す印はない。</p>	<p>道徳との関連を示す印はない。</p>
<p>「学習コラム」や「特設ページ」が設けられているが、人権や福祉、キャリア、環境との関連を示す印などはない。</p>	<p>未来の社会をつくるために参考になる取り組みを紹介したコラムに、「共生」や「環境」というテーマと羅針盤マークをつけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇少子高齢社会の問題に直面するデンマーク ◇南アフリカ共和国の変化 ◇フェアトレードの取り組み ◇二つの公用語があるカナダ ◇ブラジルにわたった日本人 ◇通信技術を医療に生かす ◇世界とつながる平和記念都市、広島 ◇地球温暖化の影響と対策 ◇鉾山町から資源リサイクル基地へ ◇自然保護と観光業の両立をめざす屋久島 ◇公害のまちから生まれ変わった水俣市 ◇砂丘地の技術を世界へ ◇姫路城とその周辺の景観を守る取り組み ◇公害の教訓を伝える三重県四日市市 ◇尾瀬の豊かな自然を守る取り組み <p>■ 15項目</p>	<p>「地理+α」というコラムの中に「持続可能な社会」というタイトルをつけたものがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇世界自然遺産 ◇環境に優しい発電をめざして ◇世界初の国立公園 ◇環境保全と観光の両立 ◇海面上昇から南の島の人々を救え ◇さまざまな再生可能エネルギー ◇バイオマス利用と循環型社会 ◇琵琶湖の環境を未来の世代へ ◇コンパクトシティをめざす富山市 ◇小笠原諸島の環境保全 ◇自然環境との共生をはかる知床半島 <p>■ 11項目</p>

教科・種目名 社会（地理的分野） 調査研究事項

調査項目	2 東書
男女共同参画社会の追究に対する配慮との関連を示す印などのある内容の数	男女共同参画社会の追究との配慮を示す印等はない。

別表 7

調査項目	2 東書
ユニバーサルデザイン化に向けた工夫（文字の書体、大きさ、図表等の色遣い、装丁方法等）	◇読みやすい書体、文字の大きさ、図表となっている。
写真の数と掲載方法等の配慮事項	◇691枚 ◇調べ学習の様子等では、イラストや写真を取り上げている。 ◇重ねた写真を取り上げている。
グラフの数と掲載方法等の配慮事項	◇145主題 ◇グラフの読み取り方や、主題図の読み取り方を種類別に説明している。
統計資料のページ数と掲載方法等の配慮事項	◇6ページ ◇世界の国別、日本の都道府県別の資料を、グラフを用いながら地域別に色つきで記載している。
注記の数	無
索引（地名、重要語句等）の数とページ数	◇797項目 ◇4ページ ◇地名索引と事項索引を分けている。
用語解説の数と掲載方法等の配慮事項	◇71項目 ◇グループごとにまとめて、後半に記載している。 ◇工業の種類については、表でまとめている。

17 教出	46 帝国	116 日文
男女共同参画社会の追究に対する配慮を示す印等はない。	男女共同参画社会の追究との配慮を示す印等はない。	男女共同参画社会の追究との配慮を示す印等はない。

17 教出	46 帝国	116 日文
◇読みやすい書体、文字の大きさ、図表となっている。	◇読みやすい書体、文字の大きさ、図表となっている。	◇読みやすい書体、文字の大きさ、図表となっている。
◇536枚 ◇調べ学習の様子等では、イラストや写真を取り上げている。	◇633枚 ◇調べ学習の様子等では、イラストや写真を取り上げている。 ◇各3章の導入では写真を大きく取り上げている。	◇612枚 ◇調べ学習の様子等では、イラストや写真を取り上げている。
◇149主題 ◇前半にグラフの種類と特徴書き方を説明している。	◇181主題 ◇グラフの読み取り方や、主題図の読み取り方を、種類別に説明している。	◇142主題 ◇グラフの読み取り方や、主題図の読み取り方を、種類別に説明している。
◇4ページ ◇世界の国別、日本の都道府県別の資料を、グラフを用いながら地域別に色つきで記載している。	◇無	◇4ページ ◇世界の国別、日本の都道府県別の資料を、地域別に色つきで記載している。
無	◇50項目	無
◇580項目 ◇4ページ	◇832項目 ◇4ページ ◇地名索引と事項索引を分けている。	◇659項目 ◇4ページ ◇地名索引と事項索引を分けている。
◇93項目 ◇グループごとにまとめて、後半に記載している。	◇58項目 ◇用語の載っている各ページに記載している。	◇67項目 ◇後半に記載している。